サンガ岩手　吉田律子さんより

岩手県盛岡市那須川町　本誓寺

現地のつぶやき・・・津波はてんでんこ（自分で助かる）、有り難い、うれしい、感謝。知らない人でも避難所では大家族。本音や愚痴、わがままを言うと居場所がない、津波のトラウマ、うなされ、ねむれない。三日間も濡れた服を着たままだった。逃げても地獄、生きても地獄。若者が死に、役に立たない年寄りが生きて申し訳ない。ぞボが逃げる時、孫の手を離してしまい孫を殺した。部活がしたい、母校のジャージを拾って洗っている。夢であって欲しい、主人と娘、孫を毎日探し歩いている。仕事を解雇され将来不安、社会世の中へ怒り

この度の震災の支援物資ありがとうございます。

余震がいまだ収まらず、まさに地震酔いの日々。
眠れない夜が、ますます不安に追い討ちをかけているようです。
自然とはなんと異常なものでしょうか。再び巡って来た桜の季節に深く吐息をしながらそう思わずにはいられません。
ひとたび徹底的に生の基盤をなめつくしておきながら、まるで何事もなかったかのように海の凪ぎ、花は咲き、木々は芽吹く。
厳しく無慈悲な恐ろしさを、寛大温和な慈悲、深さの両面が自然のあかしです。
多くの命が失われました。まだ不明者が1万人もいます。
亡くなった方々からメッセージを受け取り「残されたいのちを拾った」「助かった」人達とはかされていることへの感謝と意味を共にたしかめながらの日々です。
私も一緒に避難所に泊まり、生活実体験をしています。
人が歩く足元に枕をならべ、つっぱりベートなし、ふとん一枚分のスペースが自分の居場所。想像を絶する中で寒さと、ざわめきの中、夜をすごすことの大変さ!! 痛みは分かってもらえないが、寝食を共にすることから「つながり」「信頼」が生まれ、人と人が出会うこともあります。精神的、物質的の面も人の数だけニーズがあるわけですので、この多様性について行くのが大変です。
しかし、こんな時だからこそ、必要なものを、必要な人に心をこめて用意することが「その人の生きる糧」になると信じてます。
次から次と問題が湧き上がってきます。仮設の件、義援金、健康面、就職、子どもの教育、・・・・・・・
今まで、始業式、入学式が始まりほっとしてます。子どもには学校生活への環境作りが今一番もとめられています。
全てが、ゼロからイヤ、マイナスからのスタート!! それでもはきていかなければならない事実。物づくりも大切ですが、人を育てることが大切に思ってます。
そこに絆が深まれば心は豊かになって行くと思います。
私は現場の中で寄りそい、心を聞いて行くしかありません。　合掌

依頼品：　23.4.25.　吉田律子

（大人、子供）肌着、Tシャツ、靴下、文具、日用品。

色々寄せて頂いたもの、また購入したものを種類別に８箱送りました
サンガ岩手へ・・・下着類、靴下、学用品（絵具鉛筆等）、絵本、パジャマ、洗剤、生活用品・・・
仙台教務所へ・懐中電灯、小型ラジオ、電池、石鹸等、ノート絵の具鉛筆等、タオル・・・
ありがとうございました

支援物資を寄せて頂き

依頼に応えておくっています

日用品
春夏にむいた下着
Tシャツ
靴下
学用品
文具
などが今必要です

もしお家に眠っているものがあったら
光円寺へ寄せて下さい

よろしくおねがいします